

新たな心で一筆入魂



きよみ館2階 ロビーにて展示



力作が勢ぞろい

来年度に向けて

第2回 清見地区防災対応促進委員会 開催

2月7日(金)、きよみ館にて第2回 防災対応促進委員会を開催しました。

各町内会の自主防災組織隊長をはじめ、連携団体の代表など24名が出席し、今年度の評価・反省及び来年度の計画について話し合いました。

今年度は、無線機や発電機などの防災機器の配備、各町内会の自主防災組織の見直し、訓練の実施などを行ってきました。住民の災害に対する意識が高まっている中で、女性の参加や、要支援者を含めた避難訓練、子どもの避難対策など、今後取り組んでいかなければならないことも明らかになりました。

来年度は、全ての避難所に無線機を配備すると共に、必要とする資機材の検討を行うこと、実動的な自主防災組織にするために更に見直しを図っていくこと、そして学校や団体など地域と連携した訓練を行っていくこと等を皆さんで確認しました。



新春 書初め展



1月16日(木)から40日間開催した新春書き初め展。2月2日(日)までは中学生・書道教室・一般の皆さんの作品を、また2月4日(火)から24日(月)は清見小全児童の作品を展示しました。

元気にあいさつ
ふじ山

清見町まち協だより

第60号
令和2年3月1日
清見町
まちづくり協議会
事務所：きよみ館
TEL77-9516(直通)

清見中学校 3年生 坂上 妃生



感謝の気持ちをエールにのせて 3 清見中学校 年生を送る会

2月4日(火)、清見中学校にて3年生を送る会が行われました。

まずは多目的室にて、3年生によるお点前が披露されました。招待された保護者の皆さんは、成長した我が子が心をこめて点てた薄茶をととても嬉しそうに味わって見えました。



その後、会場は体育館へ。1～2年生からのメッセージや合唱、保護者や先生方の合唱などが披露され、新しい世界へと旅立つ3年生にエールを送りました。

それを受けた3年生は感謝の言葉と後輩に託す思いを述べ、合唱を贈りました。

最後に、生徒会と委員会の継承式を行い、代表の生徒たちによって、キャンドルからキャンドルへと灯が送られました。

清見中が培ってきた「伝統」はこれからもしっかりと受け継がれていくでしょう。



わくわくつうしん おやつ作り

2月のわくわく教室は楽しいおやつ作り！4組が参加してくれました。

今回は「べったんこ焼きおにぎり」と「やさい蒸しパン」を作りました。

べったんこ焼きおにぎりはしらす干しや干しエビ、黒ゴマを混ぜて丸めたごはんを「べったんこ」して、それをホットプレートで焼いてもらいます。

やさい蒸しパンはホットケーキミックスに茹でたにんじんやほうれん草をつぶしたものを混ぜ、型に入れたら、電子レンジにin!みるみるうちに膨らんで、さあ完成！おいしくて栄養たっぷりのおやつが、みんなとっても気に入ったみたい。おなかいっぱい食べました。



「わくわく教室」学級生募集



わくわく教室は「親と子が共に参加する学級」です。親、そして子ども同士の交流を通して楽しい学級を作ってみませんか。

対象者	清見町在住の乳幼児及び保護者
開級式	4月16日(木)午前10時～11時30分 清見福祉センター
活動日	月1～2回
年会費	※行事により参加費が必要な場合もあります
× 切	3月27日(金)
申込み先	高山市社会福祉協議会 清見支部 68-3522(直通)

※年度途中でも募集を行っています☆

きよみ歴史探訪 清見の神社シリーズ⑨ 大原春日神社



当社は社伝によれば、鎌倉時代(1184～1333)頃に勧請された。室町時代の末頃、この大原に小池五郎兵衛・二村次郎重衛門という二人の郷土がいた。小池氏は春日大明神を氏神とし、二村氏は熊野権現を氏神としていた。ともに居館の近くに齋祀して代々護持していたが、慶長4年(1599)金森長近はこの大原の地に旅館をつくり小池五郎兵衛に留守居役を命じたことをきっかけにし、小池は旅館の傍りに居宅を移し、春日社を今の地に新築奉遷したという。

明治4年、春日社は村社に指定された。大原の地には熊野権現、他に神明宮も存在したが、こちらは無格社であった。

明治40年9月、神明・熊野両社は春日神社に合併され、昭和21年、戦後の神道指令により宗教学法人として登録された。

春日神社には黄金の神像が祀られていたが、明和の頃、盗難に遭い行方知れずとなったため、長林寺八世芳谷が京都より木像を買って求め、これを神社に納めた。

その後、その木像も虫害により大破したので、長林寺九世雷働の孫にあたる空本が氏子と協力して金像を鑄造して奉納した。

当社の森は杉の梢を山藤の蔓がまき、「藤の森」と称せられ、初夏の花の盛りには紫の花簾が見事であるゆえ、昭和45年には、県の天然記念物に指定された。

明治40年に統合された神明神社はかつて庄島橋の下方の河原子庄島の大岩のほとりであった。いつの頃かこの河原に上流の表島方面から流れてきたご神体が漂着していた。里人がこれを発見し、近くに少祀を建立してこれを祀ったのがはじまりとされている。

表島ではその後、ご神体を返してもらいたいと申し入れたが、大原側はこれを受け付けなかった。ご神体は小判型の金の板に衣冠束帯(平安時代の公家の正装)の人物が刻してあったという。

ある時このご神像を盗もつとしたらまず者がいたが、神祠の周辺をつろつろのみで遂に神社の境外に出ることができず、もとの祠に返納しようやくご神像を離れることができたという伝承がある。

尚、このご神像は今では現存せず、明治40年以前にはすでに失われたようである。

「清見村誌」より